

北の縄文文化回廊
に向けたクラブ活動



通 信

第 13 号



清掃活動（五稜郭公園周辺）

目 次

1. はじめに	2
2. 平成22年度活動一覧	2
3. 各活動内容・参加協力	3～6
4. 関連活動	6・7
5. 縄文人に学ぶ	7・8
6. お知らせ	8

1. はじめに

平成22年度の活動は、会員の皆様のご協力のもと無事終了することができました。第13回総会では活動報告や収支決算も無事承認されました。終了後には懇親会もあり、1年間の活動を振り返り反省点や良かった事などが話し合われました。この1年間の主な活動として、10月の自然観察会では大舟川の鮭の遡上を見ては感動していました。今年で2回目の縄文染め研修では一般の方も参加されて、たくさんのハンカチを染めて感激していました。今年は委託事業として、北海道渡島総合振興局主催の事業として「縄文文化体験ツアー」の縄文の土笛づくりの指導や縄文鍋・どんぐりクッキーの提供もし、多くの人達に喜んでいただきました。今後も関係機関と連携しながら地道な活動をして、さらに縄文文化の普及活動をしていきたいと思っております。以下、平成22年度の活動内容を報告します。

2. 平成22年度 活動一覧

活動日	主な活動	参加人数	活動場所
5月30日	第13回「北の縄文CLUB」総会	20名	ホテルひろめ荘
6月26日	糸づくり 大船遺跡内草刈り	15名	大船遺跡展示館 大船遺跡周辺
10月2日	自然観察会 (植物・鮭の遡上見学)	15名	大船遺跡展示館周辺 大舟川
10月3日	縄文染め研修	20名	南茅部公民館
11月28日	アンギン編み	20名	南茅部公民館
2月6日	キャンドルdeナイト	30名	南茅部公民館周辺

(関連活動)

4月29日	シーニックバイウエイ 清掃活動	五稜郭公園周辺
5月22日	南茅部森と海の会 植樹会参加	大船遺跡
6月12日	ひろめ舟祭り 共催(縄文・伝統文化展示コーナー)参加協力	白尻漁港
7月11日	土器づくり・土笛づくり	南茅部公民館
8月29日	土器野焼き	大船遺跡学習広場
9月2日	縄文文化普及・活用検討ワーキング会議出席	函館市
9月11日	縄文文化体験ツアー 縄文の土笛づくり指導	南茅部公民館
11月3日	南茅部地区文化祭 土器・アンギン・草木染作品出展	南茅部公民館
12月11日	縄文の土笛づくり 指導・協力	函館市西高等学校
1月16日	アンギン編み親子体験教室 指導・協力	市立函館博物館
2月15日	渡島地域の縄文文化遺跡の活用に向けた勉強会	南茅部公民館
2月18日	歴風会チャリティー出席	函館市
2月26日	シーニックバイウエイ ルートミーティング参加	函館市

3. 活動内容

(1) 第13回総会

5月30日（日）午前10時、大船町にあるホテルひろめ荘にて第13回総会が開催されました。当日は爽やかに暖かい日でした。21年度の活動報告や収支決算も承認され、22年度の活動計画案や予算案も無事承認されました。その後、会員の手作りの土器を披露したり、石皿とすり石を用意してヒエを擦りつぶしてみたり、会員の方達はかわるがわる擦りつぶす体験をし、感触を体感していました。終了後には別室にて昼食会です。1年間の労をねぎらいながらもいろんな活動に対する意見や要望がとびかい、話は尽きませんでした。



総会の様子



楽しそうな雰囲気



ヒエを粉にしていきます



美味しいよ

(2) 糸づくり・大船遺跡内草刈り

6月26日（土）午前10時、夏を思わせるような暑い日、大船遺跡展示館前の広場を集って、糸づくりと遺跡内の外来種の草刈りに分かれて行いました。糸づくりは、展示館前にシートを敷きそこで小槌と叩き台を設置し、昨年垣ノ島の山で刈り採っておいた、アカソやエゾイラクサの茎を3～5本を手を持ち叩いていきます。あまり強く叩き過ぎると繊維が切れてしまうので手加減して叩きます。茎の木質部分をとってから、糸を撚って繊維にしてみました。とっても根気のいる作業です。便利さに慣れすぎている私達には想像もつかないくらい大変な作業だといつも実感しています。

一方では、大船遺跡整備検討委員で東北大学教授と学生による外来植物の駆除が史跡大船遺跡公園内で行われました。当日は函館市埋蔵文化財事業団の職員の方と一緒に私達クラブも駆除の手伝いをしました。この日は特に暑い日でとても疲れましたが、外来種の繁殖を防げる事の手伝いができたことは良かったと思いました。



このように叩きます



繊維を糸にしています



大舟川



サケの力強さに圧倒

(3) 自然観察・鮭の遡上観察会

10月2日(土)、青森県の樹木医の斎藤嘉次雄先生を講師に迎え、大船遺跡周辺に生育している植物についての観察会を行いました。植物や自然について解説を受けながら林道沿いに進みます。

ミズナラとコナラの実際の葉を比較して、見分け方を教えていただきました。春の植物観察会と違い、山では実りの時期を迎えていました。大船遺跡のクリやドングリなどの木の実は豊作でした。

植物観察の後、国道に下がり大舟川へ向かいました。川には、サケが、産卵のために遡上しています。大舟川橋の上から多くのサケが、しばし岩陰や淀みで体を休め、水流に流されつつも上流へと向かっていくのが見えます。河口では、我先に川へ上がろうと群れが集まり、波が打ち寄せるたびに、波の中に多数の魚影が黒く浮かび上がります。沖では、サケが海中から躍り出し、日の光を受けて銀鱗が輝いて見えました。人も生物である以上、遙か昔から他の生物の命をもらって生活してきました。自然観察は、自然の中に身を置いて、人と他の生物との関わりを考える絶好の機会です。ぜひ、次回も参加したいと思います。(平神)

(4) 縄文染め

10月3日(日)、南茅部公民館にて今年で2回目の縄文染めをしました。今年は蝦夷山桜の葉を煮

つめた染液をつくったり、トチや栗のイガを煮つめたりした液を使って染めていきました。昨年は大好評で、自分らしいオリジナルのハンカチを染めることができました。今年も青森県から当会員でもあります、樹木医の斉藤嘉次雄先生の御好意で今年も昨年に続き研修の講師をしてくださいました。私達は昨年以上にステップアップしようと、染めに挑戦しました。今年是一般の方も参加しました。お友達の分も染めてあげたいと何枚ものハンカチやバンダナに絞り染めをしようと輪ゴムを使い工夫を凝らして絞っていました。私達もどんな模様にしようかと試行錯誤しながらゴムを使い模様を頭に描きながら絞っていきました。染めあがったものがこの写真ですどうですか？きれいに染まりましたよ。みんなでいつものようにハイチーズ。



素敵に染まりました

(5) アンギン編み (ポシェットづくり)

11月28日(土)午前10時から南茅部公民館で、アンギン編みでポシェット作りをしました。今回のポシェット作りはいろんな色の毛糸を使って編んでいきました。一目おきに経糸を8列にして、30cm位編んでいきます。それを二つに折りにたたみ、脇は垂れ下がった糸で結んでいき、下は糸をどうして結びます。上は三つ編みにして糸をどうしてポシェットの口に通し、すぼめていきます。わりと簡単にできあがります。これを応用してペットボトルの袋もできますよ。



ポシェットの出来上がり

(6) キャンドルdeナイト2010 (シーニックパイウエイ北海道函館・大沼・噴火湾ルート)

2月6日(日)午後3時半に南茅部公民館に集まり「キャンドルdeナイト」の準備が始まりました。今年は雪が多かったため、バケツに雪を入れてキャンドルづくりをしました。約50個作り、その中をくり抜いたものを道路わきに設置し、その中にローソクを立てていきます。別方向では、雪をくり抜いてローソクを立てその前に雪玉を作り段重ねしていきます。準備を終え点灯までには時間があつたので、軽く腹ごしらえをしました。30分休んだでしょうか、点灯の時間になったので着火マン片手に持ちローソクに火をつけていきます。並べているキャンドルは風もなく穏やかでとても点灯しやすかったです。暗くなるとその雪玉の間隙からこぼれる明かりがとても幻想的で心を和ませてくれました。「今年は雪が沢山あつて良かったね」、と皆が口をそろえて言っていました。雪が多いせいかよけいに明かりが格別に美しく、今年が一番きれいだと思います。こんなに満足したのは久しぶりでした。来年もまた皆さんの心に残るようなキャンドルdeナイトが開催できればいいと思っています。



雪があつてよかった



きれいだね

4. 関連活動

(1) 清掃活動

4月29日(日)、シーニックバイウエイ北海道の清掃活動が小雨降る中実施されました。この日は毎年「シーニックの日」に制定され、地域情報の発信場所や観光客が多く集まる場所で清掃活動が実施されているものです。この日は肌寒く、私達クラブも函館・大沼・噴火湾ルート of 活動団体のメンバーとして、訪れる人達に気持ちよく観光していただきたいという想いから参加しました。清掃場所は函館市五稜郭公園の道路沿いを歩き、手にヒバサミやゴミ袋を持って歩きました。ソメイヨシノのつぼみはふくらみ、今にも咲きそうな雰囲気を漂わせていました。あともう少しで花見ができそうです。



あと少しで花が咲くね



二人仲良くゴミ拾い

(2) 指導協力

12月11日(土)天候は雨、土笛づくりの指導のお手伝いを依頼されて函館市の西高等学校へいきました。対象は吹奏楽クラブの生徒さん達です。自分の娘や息子のようで、真剣に取り組む姿はとても新鮮で、いろんな形の土笛ができて、満足そうな笑顔が印象的でした。



こんなふうにするのよ



うまくてきたよ



私の可愛いよ

(3) ひろめ舟祭り

6月12日(土)、臼尻漁港にて、第25回函館市ひろめ舟祭りが開催され、昨年に続き今年も参加し

ました。函館市南かやべ縄文文化創生の会主催で、NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、函館市南茅部高校縄文クラブ、当クラブの4団体で協賛しました。テーマは縄文・伝統文化展示コーナーで、ひろめ舟、献上こんぶ、縄文遺跡のパネル、クラブ会員が作った土器や中空土偶等を展示しました。当クラブでは勾玉づくり体験と土器づくりの実演、絵はがきや勾玉などの物品販売を行いました。勾玉づくりは大変好評で、子供さんの参加が多かったのが良かったと思いました。勾玉は作った人の感性でいろいろな形にできて皆さん満足気でした。他の展示コーナーも盛況でとても良かったと思いました。今年も事務局のメンバーで準備を進め、当日朝5時から設営を始め、後片付けが終わったのが、夜7時30分位でした。今回少し早めに片づけたつもりでしたが、結構時間がかかりました。でも、皆さんやり終えた充実感を味わったようでした。長い1日お疲れ様でした。当クラブの目的でもある、普及活動をとおしてもっと縄文のことに興味を持って貰えるように、活動していきたいと思います。自分なりの自由な発想でいいと思います。(大宮)



展示コーナーです



熱心な子供たち

5. 縄文人に学ぶ

縄文人の精神文化-「センス・オブ・ワンダー」

早起きして大船遺跡に立ち、太平洋から昇る朝日を迎えます。一日中、小鳥のさえずりを耳にしながら、手作業や遊びで汗をかいた身体に心地よい風を感じ、やがて泣面山に沈む夜空に降り注ぐ星たち、それは小さな生き物たちの生命の営みなのですが。時には満月が竪穴住居を昼間のように明るく照らし出し、自然の大きな力を全身に受け、思わず踊りだしたくなります。私にとって大船遺跡はパワー・スポット(聖地)のような時空なのです。『沈黙の春』という本で、農薬禍による環境汚染をいち早く告白し、戦った米国の海洋生物学者であるレイチェル・カーソンが晩年に残した「センス・オブ・ワンダー」という有名な言葉があります。彼女の定義によればセンス・オブ・ワンダーとは「神秘さや不思議さに目をみはる感性」です。大きな自然や小さな生命の驚異に目をみはり、自然の大きな力に支配されていることを感じる感性なのです。センス・オブ・ワンダーを持つことを、レイチェルはどうしても子供たちをもつ親たちに知らせたかった。それは、癌の宣告を受けたレイチェルが、自分の時間がなくなってしまう前に、何としても自分の生涯をかけて感じてきた、センス・オブ・ワンダーという「かけがえのないもの」を次世代に残したかったからなのです。死後、彼女の意思を継ぐ友人が『センス・オブ・ワンダー』という名の小さな本にしました。私にとってセンス・オブ・ワンダーは縄文人はもちろん、日本人が感性として持ち続けてきたものだと思います。一部の考古学者が言うように「縄文人の精神文化は現代人とは異質であり、わかりにくいもの」ではなく、レイチェルのように世界にも通じる人類共通の精神文化です。ただ、現代人が人口的快感生活に浸って忘れてしまっているか、鈍くなっているだけです。縄文人のセンス・オブ・ワンダーは現代人の人工的快感生活の解毒剤なのです。大船遺跡の縄文の森がセンス・オブ・ワンダーを持つ子供たちを育むかけがえのない森になってほしいと願っています。

(現在、『レイチェル・カーソンの感性の森』という映画が、全国各地で上映です。本は『センス・オブ・ワンダー (the Sense of wonder)』レイチェル・カーソン 上遠恵子訳 新潮社がおすすめです。) (櫻井)

6. お知らせ

函館市南茅部地区に、道内唯一の国宝「中空土偶」を展示する縄文文化交流センターが平成23年10月1日(土)にオープンしました。ぜひ見に来てください。



2010年10月31日 第13号発行
発行 北の縄文CLUB
連絡先 北海道函館市白尻町603-1
特定非営利活動法人
函館市埋蔵文化財事業団内
TEL 0138-25-5510
FAX 0138-25-5606